2022年（令和4年）
9月6日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
毎月3回発行（第1,第2,第3火曜日）

今号の特集

▷即席麺特集 ⑥～⑦面
▷マヨネーズ・ドレッシング特集 ⑧面
▷釜めしの素特集 ⑨面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

ごまが好きだ

株式会社真誠

第3446号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

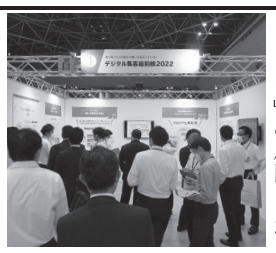
中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

主要食品卸展示会

今後の市場動向予測

DX、節約など各種対応策提案



働き方改革や内食回帰などニューノーマルの定着や新たな生活者の意識・行動の変化などは食品メーカー、小売事業者において大きな関心事となっている。先般行われた主要食品卸企業の展示会においても、様々な市場予測や様々なトレンド対応策が示された。

DXなどデジタル化による業務の高度化、効率化提案はさらに活発化する。視覚性、PR力に優れる最新型「デジタルサイネージ」の展開、スマホなどを介した顧客とのコミュニケーションによる商品や店舗の魅力ある情報発信、来店・購買の喚起につながる各種提案が多く見られた。リアルタイムで商品紹介などを行うリモートマネキン及び関連システムの提案も増加。膨大な人流データやレシート購買データなどを活用したさらに高度な市場分析や需要予測、生活者のよりリアルな消費行動の可視化による効果的な商品仕入れや売場作り、各種サービスの提案も活発となる。

原料や各種コスト高騰などを受けた節約志向の高まりに対する提案も多く見られた。国分グループ本社は運営する食の総合情報サイト「くるっぱ」で一般消費者にアンケート調査を実施。【節約のために使用したい食材】として、上位からもやし、豆腐、鶏むね肉、卵、豚こま肉、きのこ類、キャベツ、冷凍野菜などの回答があり、これら食材及び食材を使用したクロスMD提案などは有効。また【料理における節約の手段】として、食材を使い切る、買い物回数を減らす、安いPBの購入、まとめ買い、手作り機会を増やす、買い物リストを作る、作り置きを増やす、大容量商品を買う、リメイク料理を増やすなどの回答があった。

価格改定が相次ぐなかで、国産原料使用など〝値上げ以上の価値を備えた商品〟やNB商品にはあまり見られないオリジナル性の高い商品の発掘・提案、代替肉使用やトリュフフレーバー使用など惣菜・弁当カテゴリーにおけるより付加価値の高いメニュー提案なども活発となっていた。「健康」「簡便・時短」は重要なキーワードとなったほか、主要各社とも共通して力を入れていたのが「飲酒の多様化・ノンアルコール」「プラントベースフード」の提案だ。関連する商品、より魅力ある売場、業務用を含めたメニュー提案などが各展示会で多くなされた。さらに小麦粉価格高騰などを受けた「米（米食）」の提案も活発となる。米そのものの他、米粉やふりかけ・お茶漬けなど関連する商品の注目度が今後高まる可能性を示唆。これを受けた効果的な売場、商品提案が多く示された。

アフターコロナを見据え、今後も新日常の定着や新たな変化が想定されるなかで、より魅力ある店舗運営や売場作り、商品戦略は競争に打ち勝つ重要なファクターとなる。各社とも日々変化する様々な時事動向を見据え、最適応することがさらに求められる。

中埜和英氏逝去（ミツカン グループ代表）

（ミツカングループ代表兼グループCEO、MizkanHoldings代表取締役会長）8月21日、逝去。満71歳。通夜は8月25日、告別式は8月26日に近親者のみで執り行った。後日、お別れの会を執り行う予定。

故・中埜和英氏は1950年9月生まれ。慶應義塾大学商学部を卒業し、73年に中埜酢店（現ミツカングループ）に入社。86年に専務取締役となるなどグループの要職を歴任し、02年にミツカングループの八代目代表に就任。グループのトップとして「納豆事業への参入による事業多角化と市場活性化」「北米・欧州事業への積極的な事業展開と『すし』を通した現地における日本食の普及」「食酢の健康機能の科学的解明と需要拡大への貢献」に尽力。グローバル企業としてのコーポレートガバナンスを構築し、グループの海外売上高比率を50％超に成長させた。MIZKAN MUSEUMの開館やミツカン水の文化センターの初代センター長を努めるなど社会貢献にも取り組んだ。14年にはMizkanHoldings代表取締役会長に就いた。

食品産業界の発展への功績は大きく、特に食酢業界の発展に努めた。97年からの24年間に亘り全国食酢協会中央会会長として食酢業界の発展と社会的地位の向上に寄与し、農林水産大臣感謝状を授与。食酢製品が多様化する状況に「食酢JAS見直し検討会」を設置し、醸造酢の日本農林規格及び食品表示規格の改正に貢献した。20年には多大な功績がたたえられ旭日中綬章を受賞した。

自然のおいしさ!!
エジマ ジャム
小島食品製造株式会社
本社 東海市名和町一番割中25
電話〈052〉603－3511
ジミー坊や

昭和産業 辻製油と業務提携締結

昭和産業は、辻製油と製油事業に関する業務提携を8月5日に締結した。今後、資本提携についても両社で検討する。

世界的に旺盛な油脂需要や天候不順による穀物の減産、地政学的なリスク、円安進行などにより穀物・植物油・エネルギー価格は高騰し、その状況は依然継続している。製油メーカーにはより一層の製品の安定供給やコスト低減、付加価値の向上が求められている。

昭和産業は製粉や製油、糖質など幅広い事業を展開し、辻製油は製油事業だけでなくレシチンなどの機能性事業やアグリ事業を展開。製油・糖質事業を中心に双方の競争力強化が見込まれる分野に関し協同で取り組む。

提携の骨子は①製油・糖質事業連携による事業拡大と製品の安定供給体制の確立②原料・資材の効率的調達③物流拠点・ネットワークの共同活用④製品・サービスの付加価値・顧客満足度向上⑤その他、双方にメリットのある経営資源の有効活用となる。また、両社メンバーによる業務提携分科会を設置し、今後のスケジュールや個別テーマの協議・検討を実施する。

スーパーサンシ Tポイント・ジャパンとネットスーパー事業で提携

スーパーサンシは、Tポイント・ジャパンと同社が運営するネットスーパー「JAPAN NetMarket」加盟企業へのTポイントサービスの提供について業務提携で基本合意した。

同社は早くから宅配店舗事業を展開し、ネット宅配サービスについても00年にスタートしている。また、19年からは「JAPAN NetMarket」としてネットスーパーのノウハウやスキームを他社スーパーに横展開し、これまでに19社（22年8月時点）で導入されている。

基本合意ではTポイントサービスの提供をはじめ、小売店の店舗DX支援に向けた協業を開始。さらにネットとリアルの購買情報を統合したデータベースマーケティングで顧客価値の高いサービス提供にも取り組むとしている。

中飲 食知る辺

時代は変わる

高校野球で甲子園の優勝旗が、越えることはないと言われていた白河の関をついに越えた。一方で昭和や平成に活躍した著名人の訃報を聞く機会が増えた。時代の移り変わりを痛感する。

食品業界においては企業の存亡はあるものの、それよりもロングセラーブランドの優勝旗が、越えることはないと言われていた白河の関をついに越えた。一方で昭和や平成に活躍した著名人の訃報を聞く機会が増えた。時代の移り変わりを痛感する。

食品業界においては企業の存亡はあるものの、それよりもロングセラーブランドの姿に時代の変化を強く感じる。状況の変化や様々な事情によりロングセラーブランドが終売となると、時代が変化したと感じる。現在はSNSの発達によりファンの声がダイレクトに見えるだけに、その傾向がより顕著になったと思う。

ロングセラーブランドはファンに支えられて安定した売上を確保してくれるし、知名度の高いブランドは来店客に安心感を与える。しかし量販店の棚のサイズには限りがある。市場の活性化に向けての新しいチャレンジは必要であり、新たなブランドは生まれていく。ブランドの改廃は必須であり、今後も見守っていきたい。

バローHD 社長代行に小池氏が就任

バローホールディングスの横山悟代表取締役社長が8月10日付で辞任し、小池孝幸取締役流通技術本部長が取締役社長代行に就いた。また、アクトスの代表取締役会長に田代正美氏（バローホールディングス代表取締役会長兼CEO）が就き、代表取締役社長に山口眞里氏（中部薬品顧問）が就任。バローマックスの代表取締役社長に篠花明氏が就いた。

小池氏の略歴

▽1972年9月20日生▽95年バロー（現バローホールディングス）入社▽05年社長室長▽08年物流部長▽18年中部興産代表取締役社長（現任）▽19年バローホールディングスIT戦略室長兼情報システム部長▽同年取締役（現任）▽20年流通技術本部長兼システム部長